

第99号 通巻18巻第2号  
1998年7月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター  
☎077-585-4397

〒524-0212  
守山市服部町2250番地

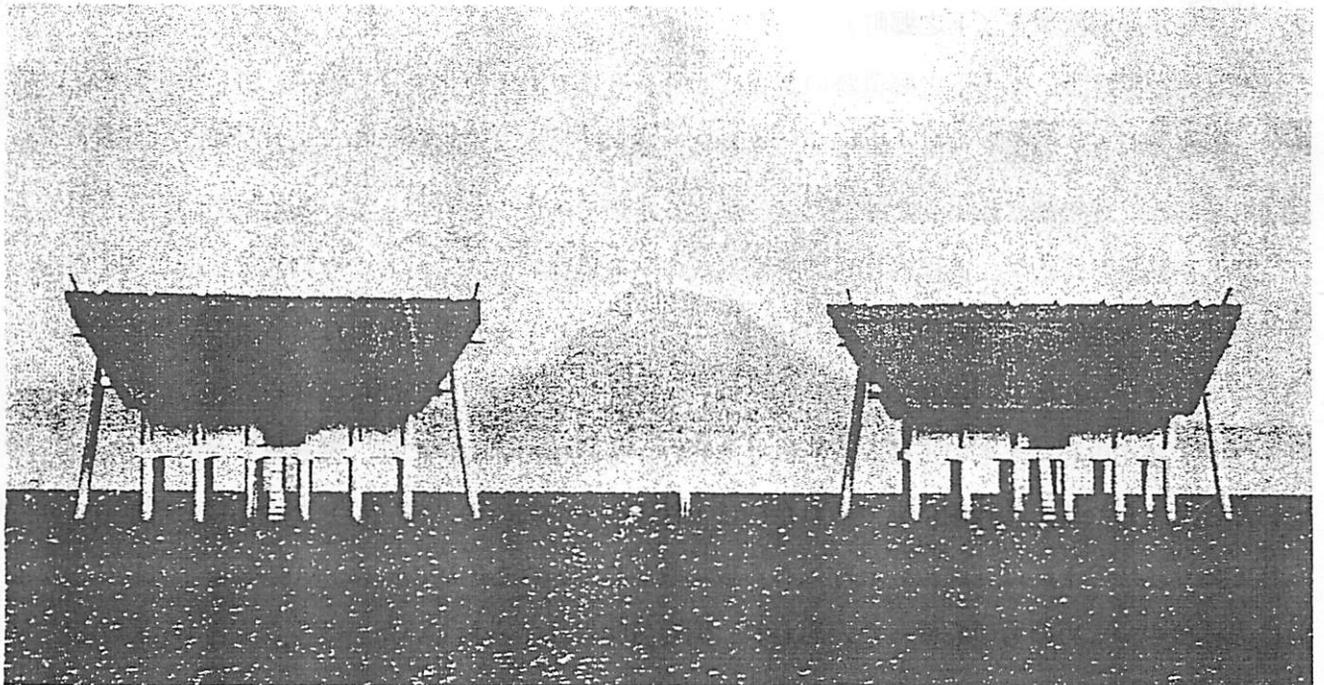
## 並びたつ祭殿さいでん（どくりつむなもちばしらつきおおがたてももの独立棟持柱付大型建物の発見）

### 1. 伊勢遺跡48次調査（伊勢町）

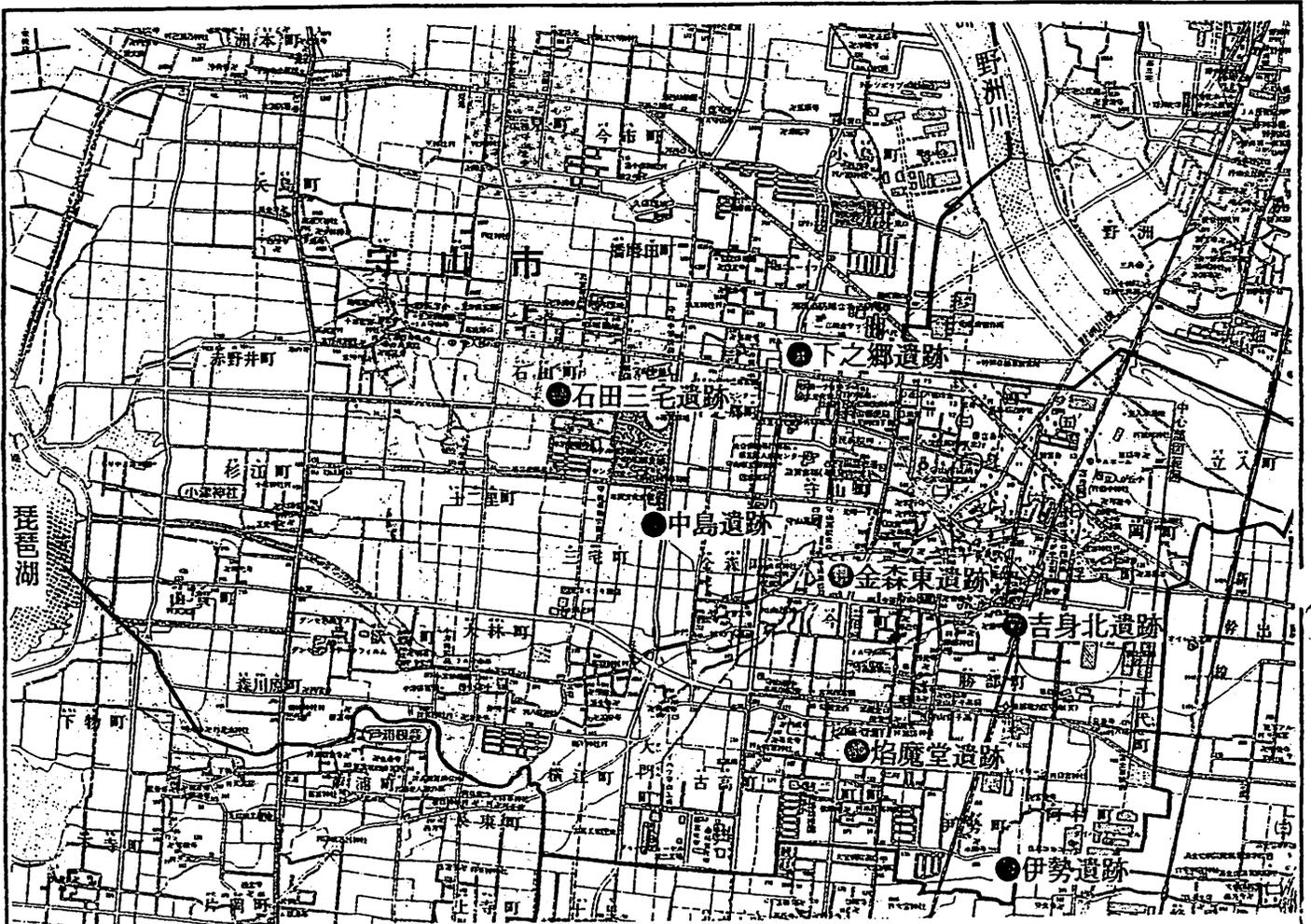
伊勢遺跡は弥生時代後期の大規模集落として全国的にも注目されている遺跡です。この地域では近年急速に宅地化が進んでいるため、開発に備えて遺跡の広がりを早急に把握していくことになりました。

今回の調査は伊勢町91番地の畑地で、約150㎡を対象に確認調査を実施しました。確認調査では基本的に平面検出をおこない、掘削は最小限にとどめています。その結果、1間×5間の独立棟持柱付大型建物が1棟みつかりました。建物の規模は長辺8.6m、短辺4.6mで、床面積は約40㎡あります。平成6年にもこの建物の約17m北側で、ほぼ同規模・同形式の建物が発見されていて、出土した土器から弥生時代後期末に2棟がほぼ直列する状態で建てられていたことがわかりました。2棟とも棟を支える柱（独立棟持柱）は建物の方に約8度傾斜していました。銅鐸や弥生土器にもこのような構造の建物が描かれていますが、元来、高床倉庫として米などの穀類を貯蔵していた建物が信仰の対象として祭殿へと変化した可能性も考えられます。

伊勢遺跡は大型建物を中心に大規模な集落を形成していたことがわかってきています。今後はその範囲や構成について一日でも早く確認する作業が求められています。（伴野）



並びたつ祭殿イメージ図（滋賀職業能力開発短期大学校 大上直樹氏作成）



発掘調査位置図

おがたかべたらしきたてもの  
大型壁立式建物を発掘

2. 下之郷遺跡24次調査（下之郷町）

都市計画道路建設に伴う下之郷遺跡の調査は6月をもって全体の北半分を終了しました。調査では集落の外側をとりまく環濠や環濠に沿ってつくられた柵をはじめ、建物跡や井戸などが環濠の内側から発見されました。建物跡は検出した時点では、掘立柱建物であろうと予測していましたが、柱穴を掘り下げて詳しく検討した結果、直径約10mの「壁立式の平地建物」であると考えられるようになりました。

「壁立式の平地建物」は竪穴住居や掘立柱建物などに比べてあまり聞きなれない名前の建物で、弥生時代としてはたいへん珍しい建物です。この建物の特徴は、①建物の中央部に直径約80cmの炉跡が確認された。②炉跡を中心に4本の主柱が方形に立てられ、さらにその外側に柱（壁芯材）が円形に立てられていたと考えられる。③外側に立てられた柱は主柱よりやや細めの丸柱（杉）が地面にほぼ垂直に立てられており、柱の下には「礎板」と呼ばれる板が敷かれていたものがあつた。④建物の出入口にあたる間口の柱はやや太めのものを使ったと思われ、開口気味に立てられていた。⑤少なくとも4回の建て替えをした可能性がある。などがあげられます。

この建物は環濠のすぐ内側に位置し、正面を環濠に向けて建てられています。建物の延長線上には建

物軸と同じ方向の柵が環濠の外側に向かってつくりられており、建物の前方がムラの出入口となっていた可能性があります。また、建物内部から多数の石製武器（打製石鏃<sup>だせいせきぞく</sup>8点、磨製石鏃<sup>ませいせきぞく</sup>1点など）が出土したことも注目されます。これらのことを考え合わせると、この建物は集落内で一般的な家族生活を営むために建てられたものではなく、ムラの出入口を守るような役目を果たしたものではないかと考えられます。おそらく、ムラの外部の人々の目には異様な構造物としてとらえられていたのではないのでしょうか。（川畑）

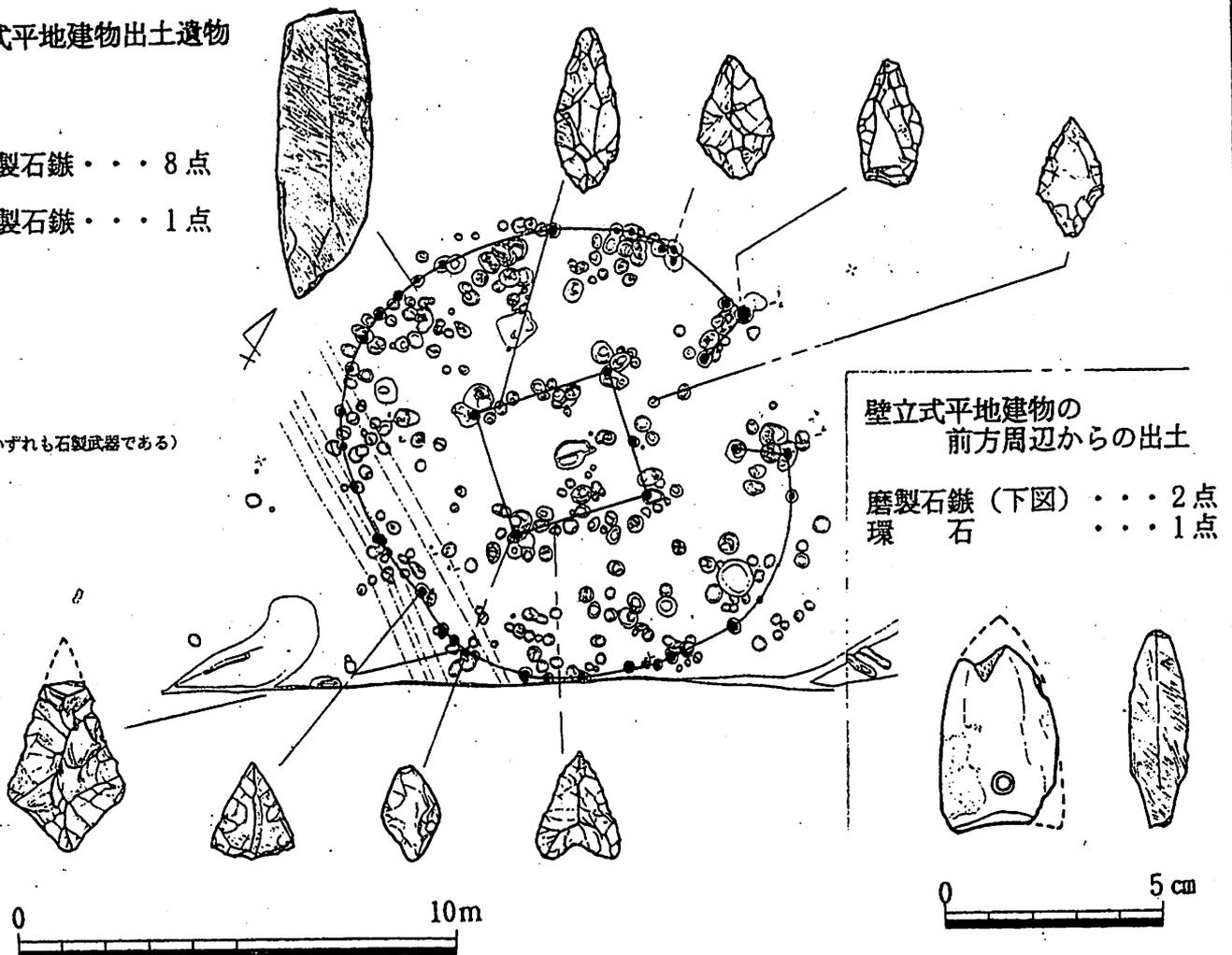


壁立式建物の復元想像図（東京国立文化財研究所国際文化財保存修復協力センター長、宮本長二郎氏提供）

壁立式平地建物出土遺物

打製石鏃・・・8点  
磨製石鏃・・・1点

（いずれも石製武器である）



壁立式平地建物平面図と出土した石製武器実測図

## 弥生時代前期の大量の遺物が出土

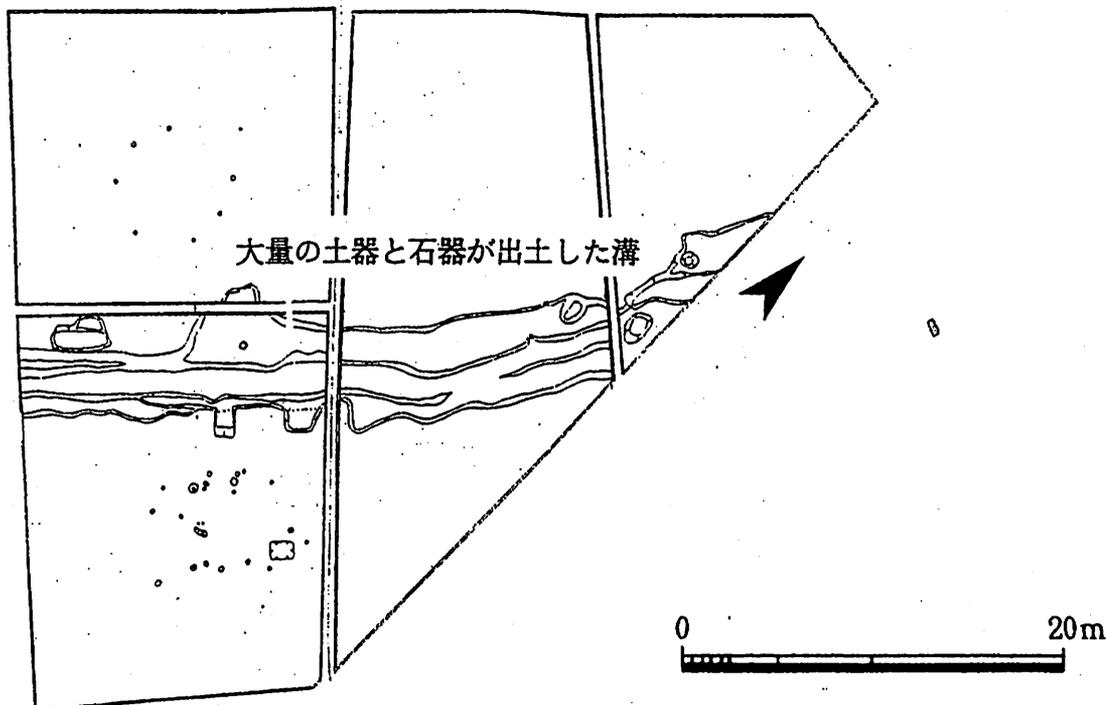
### 3. 中島遺跡2次調査(三宅町)

大学建設に先立ち、守山市民ホールの西側隣接地(三宅町字隠田)で中島遺跡の発掘調査を実施しました。

今回の調査では、調査区中央で検出した溝から弥生時代前期の土器と石器が大量に出土したことが大きな成果としてあげられます。溝の周辺から柱穴も検出されていることから、この周辺に当時の集落が営まれていたと考えられます。しかし、溝や柱穴の残り具合からみて、後世の水田耕作などでかなり削り取られ、遺構の多くは消滅していると考えられます。溝から出土した土器の量はコンテナに150箱以上あり、<sup>つぼ</sup>壺・<sup>かめ</sup>甕・<sup>はち</sup>鉢・<sup>つぼふた</sup>壺蓋などの器種もそろっています。また石器もサヌカイトという鋭く割れる硬い石からつくった<sup>せきぞく</sup>石鏃(矢じり)や木を<sup>ばっさい</sup>伐採したり、削ったり、穴をあけたりするために使用された<sup>せきぎ</sup>石斧類などその種類も豊富で、その資料的価値はかなり高いと思われます。

弥生時代前期とは日本に「稲作」が伝わった時代で、この頃の西日本一帯の土器の形や文様はよく似ています。これは土器が稲作に伴って西日本一帯に急速に広まったためと考えられています。守山市内の弥生時代前期の遺跡は<sup>はっとり</sup>服部遺跡や<sup>かつはま</sup>小津浜遺跡など、<sup>ていしつち</sup>低湿地の多い琵琶湖岸周辺での調査例はありますが、中島遺跡のような湖岸から3kmも内陸部で発見される例は珍しいといえます。

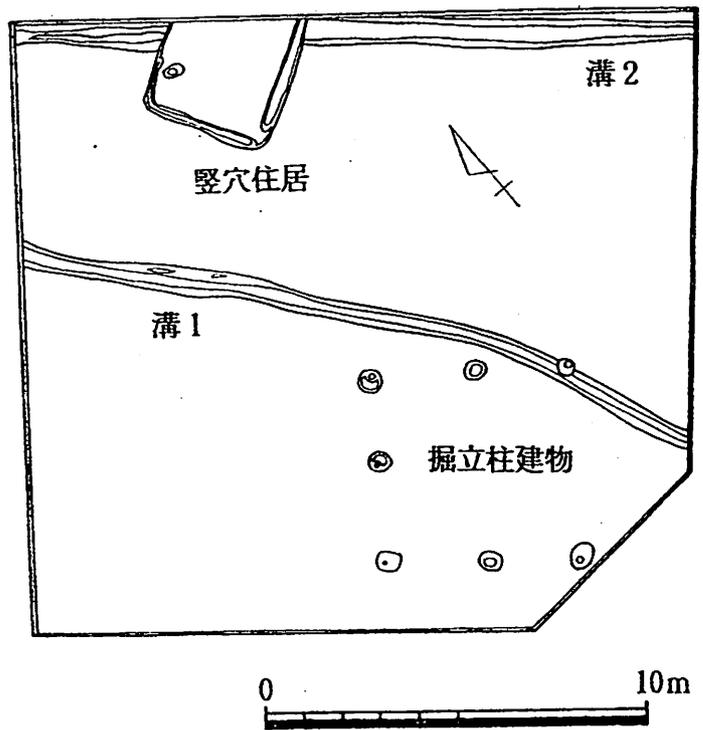
今後、調査で出土した遺物を更に詳しく調べていくことによって、また新たな守山の歴史が明らかになってくると期待されます。(岩崎)



中島遺跡遺構平面図

#### 4. 金森東遺跡12次調査（守山町）

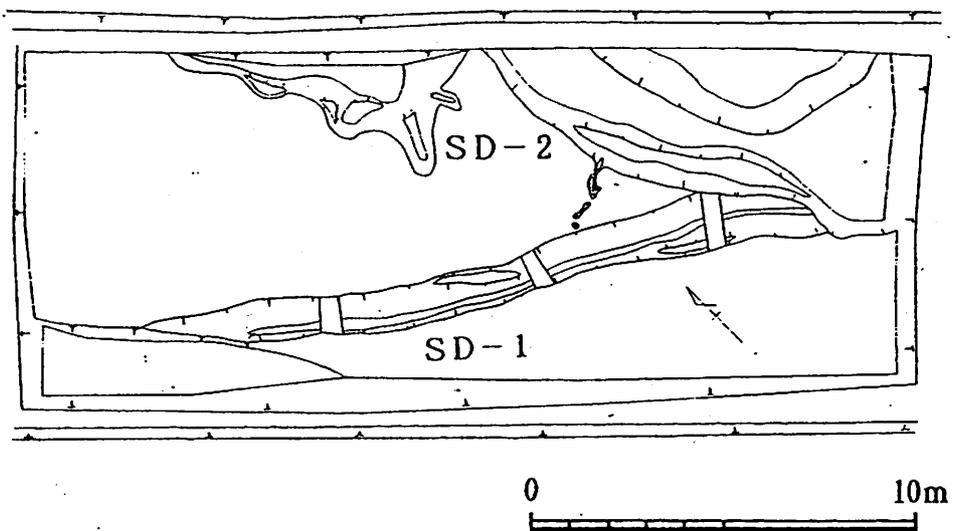
前号でお知らせした調査区が終了したので、その報告をします。掘立柱建物（2間×2間以上）は柱穴内から出土した土器から平安時代～鎌倉時代頃の年代とみられ、他の調査区で見ついている同時期の建物跡との関連が考えられます。次に溝1は幅約50～70cm、深さ約30cmの規模で、古墳時代中期の土器が少量ながら出土しました。溝2は調査区の北東辺に沿って検出されたもので、弥生時代後期の土器が出土しました。溝1とはほぼ同じ規模で、しかもほぼ平行に走ってはいるものの、かなりの時期差があることがわかりました。竪穴住居は溝1を壊してつくられています。平面の形は一辺4m弱の方形ですが、約1/3が調査区の外に広がっています。住居内からは土坑や周壁溝が検出されたものの、<sup>どこう</sup>主柱穴に相当する柱穴は検出されませんでした。このような住居は他にも数棟みつっており、<sup>しちゅうけつ</sup>どのような上屋構造であったのかを解明するのが今後の課題といえるでしょう。なお、この竪穴住居の年代は出土した土器から古墳時代中期と考えられます。（小出）



金森東遺跡遺構平面図

#### 5. 石田三宅遺跡の調査（石田町）

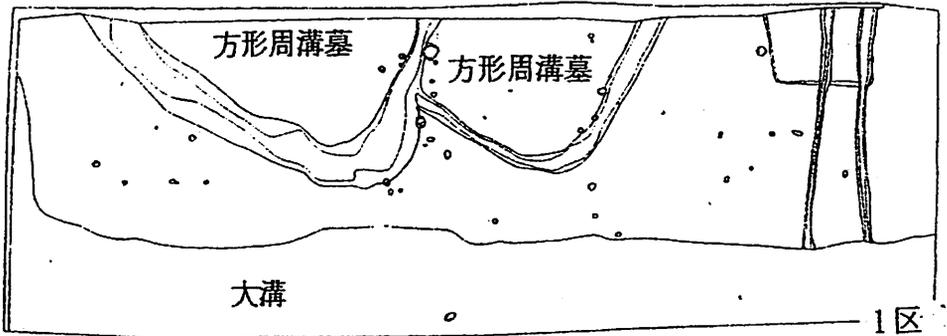
5月21日から道路改良工事に先立ち、発掘調査を実施しています。これまでのところ、古墳時代の溝（SD-1）と平安時代の川跡（SD-2）がみつかっています。SD-2は蛇行しながら北へ流れていたと考えられ、須恵器や灰釉陶器（草木の灰を水に溶かして、<sup>うわぐすり</sup>上薬にした陶器）などが出土しています。今後は東へ向かって調査を進めていく予定です。（藤原）



石田三宅遺跡遺構平面図

## 6. 焰魔堂遺跡の調査 (焰魔堂町)

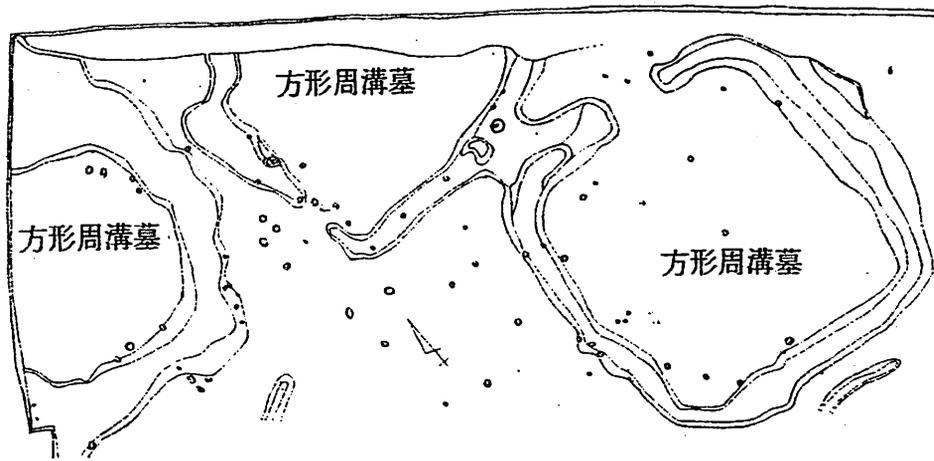
現在、2つの調査区での調査をほぼ終了しています。これまでのところ、<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>方形周溝墓5基をはじめ、大溝1条、小溝2条、土坑、ピット群などを検出しています。方形周溝墓は一辺が10m前後のものが多く、周溝が連続しているものや周溝の一辺がとぎれているものがみられず。時期は周溝内から出土した土器から弥生時代後期後半頃と考えられます。



用水路

頃と考えられます。

大溝は1区と2区にまたがって検出されており、最大幅は約12mを測ります。時期は明確ではありませんが、1区と2区の間



ある用水路と何らかの関係があるものと思われます。(中村、大岡)

焰魔堂遺跡遺構平面図

## 7. 吉身北遺跡18次調査 (勝部町)

西友駐車場の向い側で立体駐車場建設に先立ち、6月から調査を開始しています。これまでに5世紀後半頃の竪穴住居が11棟確認されています。まだ、住居内部を掘削していないため不明な点が多いのですが、順次わかったことを次号で報告したいと思います。(大岡)

### 【埋蔵文化財センター歴史入門講座のお知らせ】

埋蔵文化財センターでは下記のとおり歴史入門講座を開催しています。詳しいお問い合わせは市立埋蔵文化財センターまで。(☎585-4397 有線(速)38112)

☆ 日程および講座内容 ~全体テーマ 『遺跡から何がわかるか』☆

第2回	7月18日(土)	午前10時~12時	「弥生時代の遺跡調査」
第3回	8月22日(土)	〃	「古墳時代の遺跡調査」
第4回	9月19日(土)	〃	「奈良時代の遺跡調査」
第5回	10月16日(金)	〃	遺跡発掘現場の見学
第6回	12月19日(土)	〃	「中世の遺跡調査」